



從是川下
徳川家康公











後醍醐天皇聖廟夕寶殿

此の地は禪宗最初の道場壇林寺の旧跡に
して後嵯峨龜山兩天皇が離宮を造營
せられた所で後醍醐天皇が御幼少の頃
勉学せられ御成人せられた跡です。

延元四年(一三三九)天皇が吉野の
行宮で遙か京都を望みおかくれに
なつたので光嚴上皇は院宣を下して
御菩提のために離宮を革めて禪刹
天龍寺とされました。

創建以来八回の火災に遇い、昭和
九年当時の管長精拙和尚が現在の
聖廟夕寶殿を完成しました。

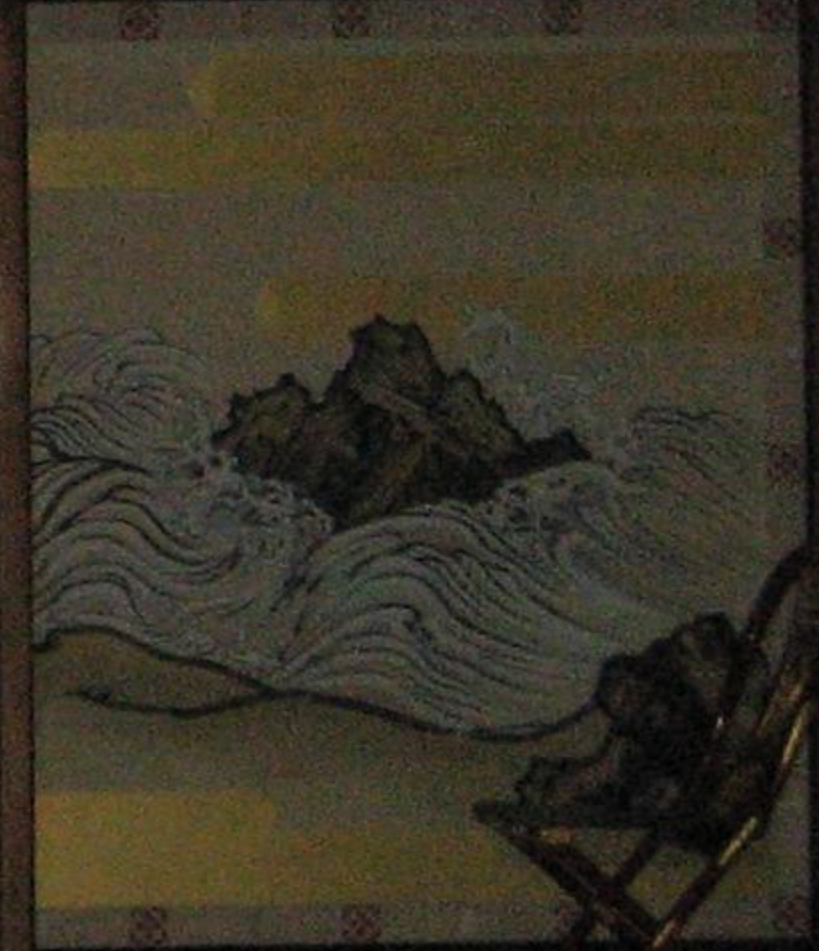
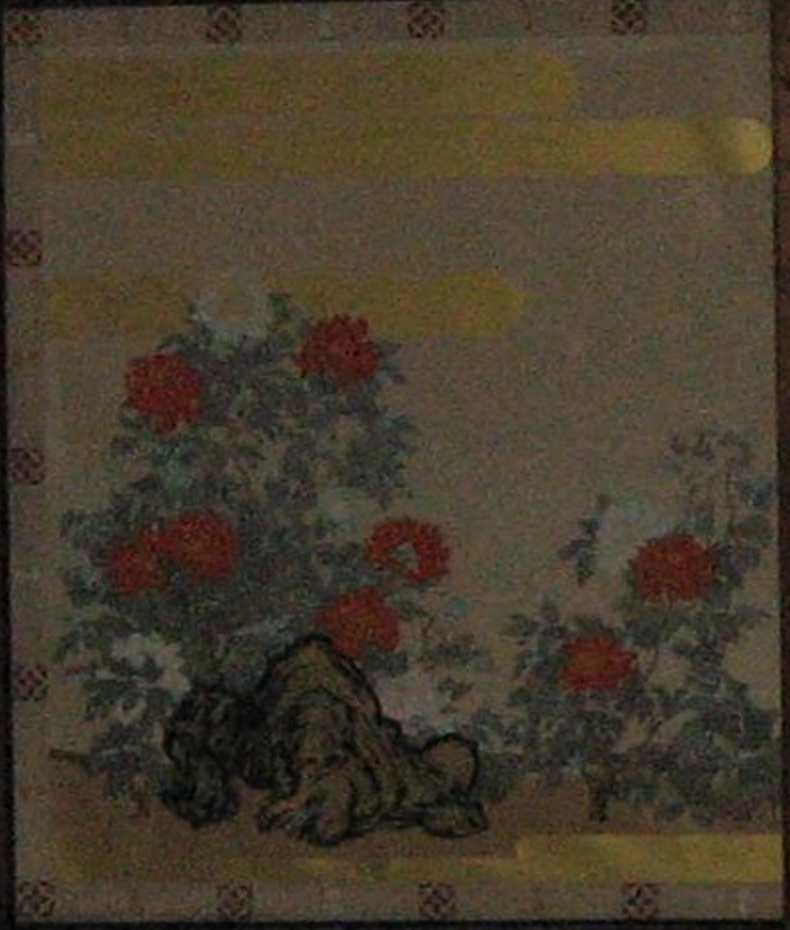
建築様式は吉野朝時代の紫宸殿
づくりで中央に後醍醐天皇の御尊像を
両側に歷朝天皇の尊牌が奉安してあります。

天龍寺



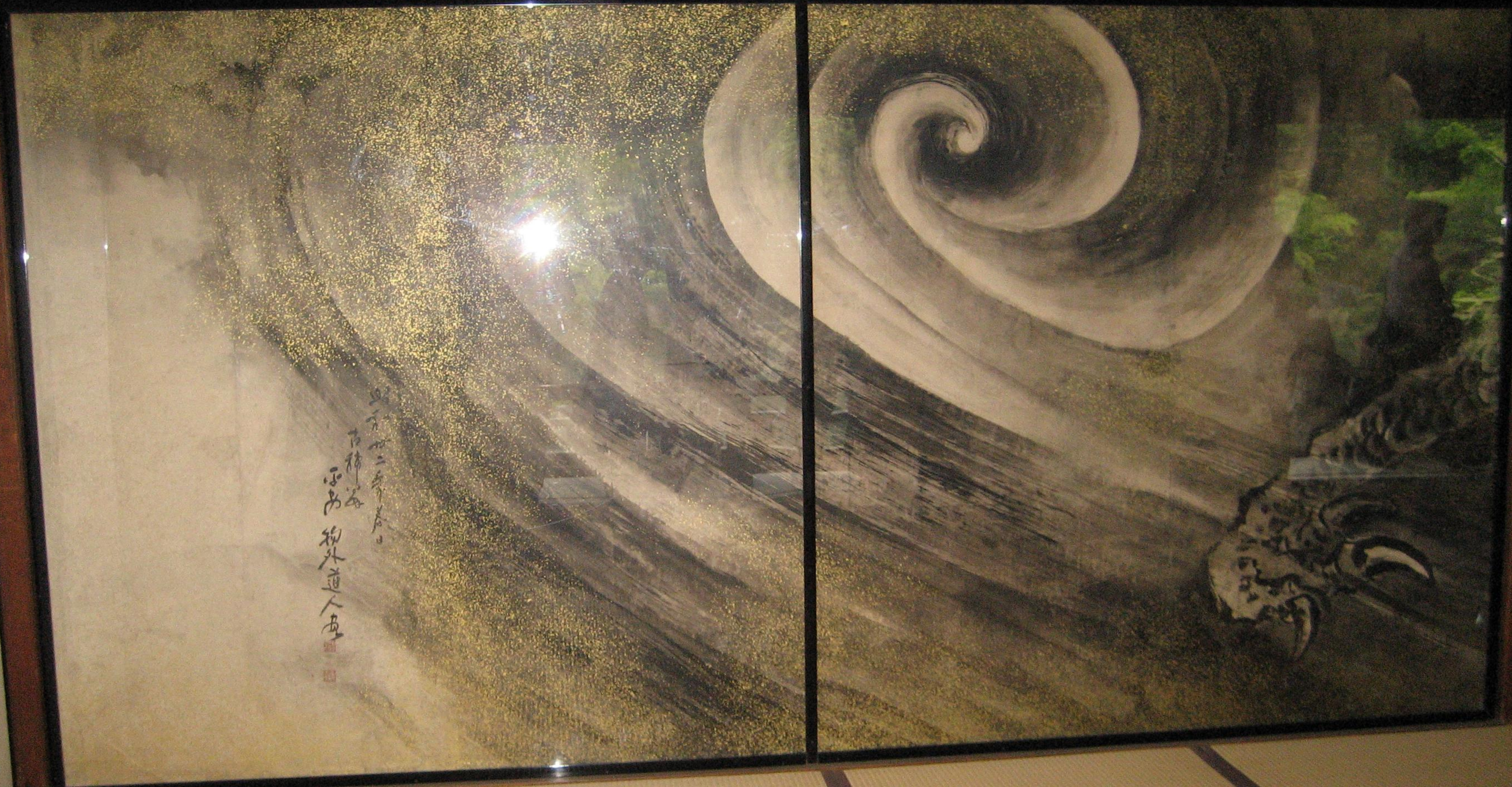


聖寶



立入





此乃世之奇景也
古神宮
正為 柳外道人畫



立

明... 山... 物... 先... 好... 字... 要















